

富山県・黒部市

黒部川電気記念館

—沿線一帯が歴史博物館—

亀谷一洋 編集委員

黒部川電気記念館は、関西電力(株)が黒部川の電源開発の歴史と現状をPRするために、1987年に黒部峡谷鉄道(トロッコ電車)の始発駅である宇奈月駅の正面に建設した記念館である。年間の入場者数は約12万人で、黒部峡谷鉄道を利用しての観光の拠点、案内所としても活躍している。

黒部川電気記念館に入ると、黒部ダム(通称…クロヨン)の1/60の模型が迎えてくれ、その大きさに驚かされた。ダム模型の下には、黒部川水系のパノラマ模型があり、黒部峡谷の厳しい地形とダム、水力発電所群、日本海までが詳細につくられている。黒部ダムと光ファイバーケーブルでつながれている、ダムの現在の様子がモニターに映し出されている。また、吉村昭氏の『高熱隧道』にも出てくる、急峻な黒部峡谷をはようようにしてつくられた日電歩道の模型もあり、開発当時の険しい自然環境に挑んだ先人の情熱と執念を知ることができる。この日電歩道、現在は道幅約80cm、高さは川床から2000mのところもあるそうだ。館内にはビデオライブラリー

もあり、多くの発電所が冬の厳しい気候や国立公園内という景観上の理由から地下に建設されたことや、現在の黒部川水系の発電所群は無人操業していて、新愛本制御所で一括制御を行っていることなどを、映像で学ぶことができる。イベントとしては、関西

電力(株)が富山県とともに、毎年、黒部ルート公募見学会を行っている。数年前の紅白で使われた黒部トンネルを通じて黒部ダムまで行くことができ、高倍率の人気イベントとなっている。

お話を伺った館長の九里知文(くわりのり)さんは、「この電気記念館で模型や映像からダムの大きさや自然の厳しさを知ってもらい、ぜひとも実際にトロッコ電車けやくだいらで樺平駅まで行って、急峻の黒部峡谷を体感して、ここに鉄道やトンネルを通したり、ダム、発電所をつくった土木、建築関係者の勇気と英知を感じてもらいたい」と話された。鉄道沿線には富山県の建築百選にも選ばれた黒部川第二発電所(山口文象氏設計、1936年建築)など、数多くの土木・建築作品があり、まさに沿線一帯が歴史博物館という感じである。

なお、時間があれば立山・黒部アルペンルートから実物の黒部ダムや木本正次氏の小説による映画『黒部の太陽』で有名となった破碎帯地点も、バス車中より実際に見ることをお勧めする。

Access アクセス

所在地 〒938-0200 富山県黒部市黒部峡谷口11
電話 0765-62-1334
交通 富山地方鉄道 宇奈月温泉駅下車徒歩2分
北陸道黒部I.C.より約20分
開館 夏期(4月20日～11月30日)
7:30～18:00
冬期(12月1日～4月19日)
9:00～16:00
※冬期は毎週火曜日休館

入場料 無料

URL <http://www.kepco.co.jp/pr/kurobe/prcenter.htm>

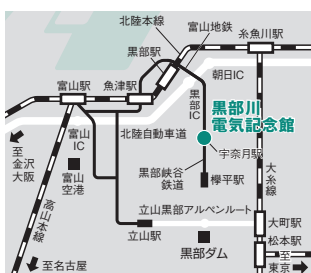
黒部峡谷鉄道*

- 営業期間(4月20日～11月30日)
- 料金 宇奈月温泉—樺平まで 1,660円

立山黒部アルペンルート*

- 営業期間(4月17日～11月30日)
- 料金 電鉄富山駅—黒部ダム—JR信濃大町駅 10,560円

*いずれも積雪の状況によって変更あり





黒部川電気記念館外観(提供：関西電力(株))



黒部川水系のパノラマ模型



入口正面にある黒部ダム模型



当時の苦勞がわかる日電歩道模型



圧倒的なスケールの黒部ダム(クロヨン)



黒部峡谷鉄道と新黒部川第三発電所



今も現役。山口文象氏設計の黒部川第二発電所